

目指す学校像	「授業」第一主義 (G r i t) 「生徒」至上主義 (G r o w t h) 「地域」尊重主義 (G l o b a l)
--------	--

重点目標	1 基礎的・基本的な学習内容の指導を基にした、基礎学力の向上 2 生徒の豊かな心の育成と、健康で安心・安全な学校生活の推進 3 保護者・地域等とのコミュニケーションを基にした、コミュニティ・スクールの推進 4 保護者・地域から信頼される教職員に向け、指導力向上と資質向上
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標								実施日令和6年1月30日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	【現状】 ○令和4年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査では、国語・数学ともに市の平均正答率と比べ、課題がある状況である。 ○授業に関しては、落ち着いて取り組んでいる。しかし、基礎学力及び確かな学力の定着に結びついていない。 【課題】 ○令和4年度全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語においては「情報の扱いに関する事項、書くこと」、数学については「数と式、図形、関数」に関する学習内容が課題である。 ○学習内容の基礎・基本の定着が課題である。 ○家庭学習の定着が課題である。	・学習内容の基礎・基本の定着 ・学習に対する達成感・成就感の経験	①T T・少人数指導を活用し、個に応じた指導を実施する。 ②タブレット端末など様々なツールを活用し(学校・家庭)、基礎学力の定着と家庭学習の定着を図る。	①学校生活アンケート(生徒)の学習に関する質問で、肯定的な回答が85%以上となったか。 ②学校生活アンケート(生徒)の家庭学習に関する質問で、肯定的な回答が60%以上となったか。	①T Tやスクールアシスタントを活用し、きめ細やかな指導を行った。その結果、生徒のアンケートで肯定的な意見が82%であった。 ②スタディサプリを活用しての家庭学習が不十分であった。その結果、生徒のアンケートで肯定的な意見が27%であった。	C	【課題】 ○予習・復習を含めた、家庭学習の定着を図らなければならない。 【改善策】 ○宿題やタブレットの持ち帰りなど家庭学習の具体的な方策を提示する。	○小学校と中学校が連携をして、学習の取組を9年間統一したものとつなぐと実感する。 ○繰り返しの学習が大切である。 ○学校での補充の学習を充実させる必要がある。 ○家庭学習の啓発を行うとよい。	
			①成果確認テスト(5教科)で、生徒が目標(目標値の設定)をもって学習できるようにする。 ②各教科において、既習事項の確認と授業の振り返りを行い、個々の生徒が「分かった・理解した」と感じる授業を実施する。	①成果確認テスト(5教科)において、平均正答率が70%以上となったか。 ②国語・数学の定期テストにおいて、基礎・基本の問題の正答率が65%以上となったか。	①成果確認テストの積み重ねにより、基礎・基本の定着につながり、平均正答率が65%であった。 ②教科での既習事項の確認等の積み重ねや基礎・基本の学習内容の徹底により、基礎・基本の問題の平均正答率が66%であった。				B
2	【現状】 ○令和4年度学校生活アンケート(生徒)において、「いじめや差別をすることなく、思いやりの気持ちをもってみんなと協力し、学校生活を送っていますか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合が、97%であった。 ○令和4年度学校生活アンケート(生徒)において、「安全に気を付けた学校生活をしていますか」、「健康に気を付けた学校生活をしていますか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合が、96%であった。 【課題】 ○生徒の豊かな心を育成するために、各授業や諸活動の内容を改善していかなければならない。 ○学校に足が向かない生徒に対しての、受入態勢と学習室等の整備をより行っていく。	・生徒一人ひとりへの細かな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・教育環境・学習環境の整備及び、生徒の安全への意識の向上	①担任・さわやか相談員・スクールカウンセラー等の連携を強化し、生徒一人ひとりへの支援体制の整備と強化を行う。 ②教育支援・相談に係わる校内組織を整備し、きめ細やかで組織的な支援・援助を行う。	①学校生活アンケート(生徒)の生活に関する質問で、「そう思う」の回答が75%以上となったか。 ②学校評価に係るアンケート(保護者)で、教職員の対応に関する質問で、肯定的な回答が85%以上となったか。	①生徒一人ひとりに、個に応じた寄り添った指導を行った。その結果、生徒のアンケートで「そう思う」の回答が95%であった。 ②相談体制や校内組織の改善により、生徒・保護者に寄り添った指導を行った。その結果、学校評価(保護者)で肯定的な意見が66%であった。	B	【課題】 ○より一層、個に応じた支援と連携のとれた指導の徹底を図らなければならない。 【改善策】 ○生徒一人ひとりの豊かな心の育成を図り、安らげる学校づくりを行っていくために、校内組織の強化を図る。	○学習室を充実させ、生徒の学校生活の充実を図ってほしい。 ○生徒一人ひとりに寄り添った指導を続けてほしい。 ○個に応じた学習や支援を充実させて、様々な面から生徒を育ててほしい。 ○引き続き、安心・安全な学校づくりに努めてほしい。	
			①安全及び健康に関する指導の充実とともに、校舎内外の施設・設備の改善を行う。 ②新型コロナウイルス感染症対策の徹底を始め、各種安全等に関する訓練を徹底する。	①学校生活アンケート(生徒)の安全に関する質問で、「そう思う」の回答が75%以上となったか。 ②学校評価に係るアンケート(保護者)で、安全及び健康指導に関する質問で、肯定的な回答が平均90%以上となったか。	①安全及び健康に関する指導の徹底と施設設備の改善を図った。その結果、生徒のアンケートで「そう思う」の回答が95%であった。 ②新型コロナウイルス感染症の対策も含め、校内外の安全対策に取り組んだ。その結果、学校評価(保護者)で肯定的な意見が87%であった。				A
3	【現状】 ○「豊かな絆(地域・郷土)・豊かな知(学力・判断)・豊かな心(挨拶・自尊)・豊かな体(健康・体力)」で、地域を担える生徒を育成するために、具体的な取組を熟議した。 【課題】 ○令和5年度は、これまで熟議したことを基に、学校・家庭・地域で取組を実施し、生徒の変容を検証していかなければならない。	・生徒の姿を地域全体で共有する教育活動の展開 ・生徒の地域活動への参加及び地域人材を活用した教育活動の推進	①学校日より及びホームページを活用し、学校運営協議会及びSSNの情報並びに取組を発信し、めざす生徒像等を広く共有し生徒を育成していく。 ②学校行事・学校公開を活用し、生徒及び教職員の活動を保護者・地域に広め、学校の取組を理解していただく。	①学校評価に係るアンケート(保護者)で、「教育活動の積極的な公開を行っている」の質問で、肯定的な回答が90%以上となったか。 ②学校評価に係るアンケート(保護者)で、「めざす生徒像」に関する質問で、肯定的な回答が90%以上となったか。	①学校公開・学校行事において生徒の取組を公開することができた。その結果、学校評価(保護者)で肯定的な意見が90%であった。 ②前向きに取り組む生徒が多く、めざす生徒像に向け多くの生徒が努力をしている。その結果、学校評価(保護者)で肯定的な意見が73%であった。	A	【課題】 ○保護者・地域に、生徒・教職員の取組を積極的に公開し、学校運営を周知していかなければならない。 【改善策】 ○学校の活動を保護者・地域に広め、保護者・地域と一体となって、生徒を育てていく。	○地域の行事や活動を、昇降口に掲示したことにより、生徒のボランティアや行事への参加が増え、中学生の活躍を見ることができた。 ○顔が見える関係が大切で、互いに顔を合わせ、話ができる関係を大切にしていきたい。 ○より一層、学校や生徒の活動・学校運営協議会の活動を様々なツールを用いて周知し、理解を深めていかなければならない。	
			①生徒・教職員が、地域主催の活動やボランティアに積極的に参加し生徒を育成していく。 ②地域の人材を活用し、学校と地域等が協働した取組を充実させる。	①学校評価に係るアンケート(保護者)で、「生徒の地域社会への貢献の促進、地域ぐるみの生徒の健全育成」の質問で、肯定的な回答が90%以上となったか。 ②学校評価(教職員)で、「関係機関・保護者・地域の連携を強化し、生徒の健全育成」に関する質問で、肯定的な回答が90%以上となったか。	①生徒自ら地域行事等に積極的に参加することができた。また、教員もPTA活動に参加することができた。その結果、学校評価(保護者)で肯定的な意見が76%であった。 ②育成会及び民生委員等と連携し、生徒の健全育成に努めることできた。その結果、学校評価(教職員)で肯定的な意見が100%であった。				A
4	【現状】 ○ICT機器の活用を含め、指導方法を工夫・改善し、「分かる授業」を目指し、個々の教師の指導力向上に努めている。 ○計画的に服務に関する研修を行い、教職員の資質向上に努めている。 【課題】 ○ICT機器の効果的な活用について、教職員の指導方法を改善及び充実させる必要がある。 ○より一層、教職員一人ひとりの意識の向上に努めなければならない。	・信頼される教職員を目指した、指導力向上研修、服務研修の実施及び教職員一人ひとりの意識改革の推進	①年間を通じて、「分かる授業」を目指し、日頃の教材研究等を行い、教員相互の授業見学及び研修を実施する。 ②教職員一人ひとりが学習指導(指導方法)や生徒指導・教育相談(生徒・保護者対応)について校内研修を実施する。 ③各学期に服務等に関する研修を実施する。	①全ての教師が相互の授業見学を行い、研修を深めることができたか。 ②学校評価(教職員)で、「学習指導及び生徒指導」に関する質問で、肯定的な回答が90%以上となったか。 ③全教職員が服務に関しての意識の向上が図れたか。	①教職員が授業を参観し、指導方法について協議し指導力向上に努めた。また、市教育委員会の指導も受け、日頃の授業で活用することができた。 ②指導方法・生徒指導体制の改善により、学校評価(教職員)において、肯定的な意見が、学習指導86%、生徒指導95%であった。 ③倫理確立研修会を通して、全教職員の服務等に関する意識の向上が図られた。	A	【課題】 ○ICT機器の効果的な活用も含め、教職員の指導方法を改善及び充実させる必要がある。また、より一層、教職員一人ひとりの資質の向上に努めなければならない。 【改善策】 ○より一層、指導方法を工夫・改善し、「分かる授業」を目指し、個々の教師の指導力向上に努めている。 ○研修の目的を明確にし、教職員の資質向上に努めていく。	○より一層、生徒の学力向上に向けて取り組んでほしい。 ○「わかった・できた」と感じることが出来る授業を行なうことにより、生徒への学習の興味をもたせてほしい。	